円滑な学級経営を支える
小学校生徒指導の手引

～問題行動等の未然防止に向けて～

愛知県生徒指導推進協議会

愛知県教育委員会

（平成 24 年３月）

円滑な学級経営を支える小学校生徒指導の手引」目次

１　はじめに　……　１

２　円滑な学級経営を支える小学校生徒指導に大切な３つの視点と「児童理解」……　２

視点１　好ましい人間関係づくり

視点２　一人一人の居場所づくり

視点３　自分らしさが輝く場面づくり

◆　３つの視点を支える「児童理解」

◆　円滑な学級経営を支える生徒指導チェックリスト　……　４

３　円滑な学級経営を支える小学校生徒指導のヒント　……　５

Ｑ１　一人一人が安心して学級生活を送れるようにするには、何が必要ですか…　５

Ｑ２　温かい学級の雰囲気づくりを、どのように進めたらよいですか……　６

Ｑ３　担任では気付かない学級の成長や課題は、どうとらえたらよいですか……　７

Ｑ４　学級目標を大切にするには、どうしたらよいですか　……　８

Ｑ５　係・当番活動は、どんなことに留意するとよいですか　……　９

Ｑ６　授業では、どのようなことに心掛けたらよいのですか　……１０

Ｑ７　一人一人の自分らしさは、どのようにしたら引き出せますか……１１

【児童理解に支えられた実践事例】

事例１　交流児童との関わり合いを生かして学級集団の心を育てる（５年）……１２

事例２　特別な支援を必要とする児童に寄り添い成長を支える（４年）……１４

事例３　誰もが安心して過ごせる教室環境をつくる（２年）　……１６

事例４　学級での居場所づくりを通して、自分を表現する姿を引き出す（６年）…１８

事例５　人間関係づくりの苦手な児童を学級の仲間と関われるようにする（５年）２０

４　実践から見えること　……２２

５　小学校生徒指導への提言　……２４

６　小学校における実践レポート一覧　……２５

７　おわりに　……２７

１　はじめに

私たちは、未来を担う子どもたちを、豊かな人間関係を築き、かけがえのない自他の命を大切にすることのできる人間として育てたいと考え、生徒指導上の諸問題の未然防止に向けた取組を推進しています。

しかしながら、県内の小学校、中学校においては、いじめや不登校、暴力行為など生徒指導上の諸問題が、依然として憂慮すべき状況にあります。そうした中、「平成 22 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の結果からは、低年齢化・多様化している問題行動を見逃すことなく、早期対応を続けている学校の実態がうかがえます。

学校生活の中では、児童生徒同士の些細なトラブルは珍しくありません。しかし、そうしたトラブルが、いじめや不登校、暴力行為へと発展していくことのないように未然防止を図ることが、問題行動等に対する何よりも重要な取組になります。

昨年度より、愛知県生徒指導推進協議会では、問題を起こしている児童生徒は、小学校段階から集団での生活に不適応を起こしていることや、級友と助け合ったり、学び合ったりする経験が少ないことに着目しました。また、集団において自分の責任を果たす喜びを知らずに過ごしてきた子どもが多いことにも着目し、生徒指導上の諸問題の解決に向けて、小学校における学級経営と生徒指導の充実・改善を図るべく協議を進めてきました。

円滑な学級経営は、生徒指導上重要な役割を果たしています。教員は、人間関係の深化や自己有用感の高揚を図る生徒指導力を身に付け、児童生徒に自律性や規範意識を培っていくことが望まれます。県内の実践事例をまとめた本書が、生徒指導の在り方を考える資料として、若い教員をはじめ、広く活用されることを願ってやみません。

平成２４年３月

愛知県教育委員会

２　円滑な学級経営を支える小学校生徒指導に大切な３つの視点と「児童理解」

自分の感情や思いを相手に伝えることができず、人間関係の形成が不得手で、友達や仲間のことで悩む児童が増加しています。こうした児童は、学級生活に自分の居場所を見いだせずにいます。そして、その不安や寂しさが、問題行動の要因となっている事例を多く見ます。そこで、小学校生徒指導の在り方を見つめ直し、生徒指導上の諸問題への未然防止の具体的な手だてとして、次の三つの視点を設定しました。

視点１　好ましい人間関係づくり

共感的な人間関係で結び付いた学級の中でこそ、児童はお互いを認め合い、学び合うことができます。そして、一人一人の規範意識が高い学級であれば、児童は安心して仲間と共に成長することができます。

教員は、自らの人となりを開示しながら児童を温かく見守ることにより、一人一人が伸び伸びと学級生活を送れる環境づくりに努めます。その一方で、仲間への配慮の足りない言動に対しては、その言動がもたらす結果や責任などを理解させるき然とした指導を行うことが必要です。それにより、児童に学級の仲間と一緒に生活しているという意識を育てていくことが大切です。

- □　一人一人が安心して楽しく生活するためのルールづくり
- □　規範意識を育む、き然とした指導
- □　言語環境や教室環境の整備

視点２　一人一人の居場所づくり

自分は価値ある存在だと実感できる環境の中でこそ、児童は心から学校生活の楽しさや成就感を味わうことができます。自分はこの学級の重要な一員であるという意識をもつことができ、日々の授業や諸活動における居場所があれば、児童は自己存在感を味わいながら、仲間と共に成長することができます。

教員は、日々の授業や学級の取組において、一人一人の活躍の場が保障されるように、活動内容の工夫に努めます。その中から生まれてくる一人一人のかけがえのなさを、具体的な事象を取り上げながら本人や学級に伝えることにより、誰もが学級にとって大切な存在であるという意識を育てていくことが大切です。

- □　学級目標を活かし、帰属意識を高める指導
- □　誰もが楽しく分かる授業づくり
- □　役割意識を醸成する居場所をつくる指導

視点３　自分らしさが輝く場面づくり

一人一人がもっている能力や資質、感性等が学校生活の様々な場面で生かされ、認められる場があれば、児童は目的意識をもって主体的に物事に取り組めます。そして、自信をもって自己決定をしながら、仲間と共に成長することができます。

教員は、児童一人一人が自らの課題をもって追究したり、考え、判断したりしたことを、自分の言葉で表現できるような機会の設定や活動の工夫に努めます。そこで見られる取組の姿勢や自発性・自主性に対して、評価や励ましを行うことにより、自分の良さに気付かせ、何事もやらされるのではなく、主体的に取り組もうとする態度を育てていくことが大切です。

- □　一人一人の自分らしさが表現される活動
- □　じっくり考えたり、方法を選択したりする機会の保障
- □　結果の良し悪しではなく、過程を振り返る場の設定

３つの視点を支える「児童理解」

「生徒指導は児童理解から始まる」と言われます。教員は、登校時、授業中、給食活動、清掃活動等、児童と共に学校生活をしており、家庭状況や学業成績、身体や行動上の問題などの多くの情報を得ることができます。また、保護者はもとより、他の教師やスクールカウンセラー、兄弟姉妹や学級の友達など、児童を取り巻く多くの人からも情報を得ることができます。

児童のどのような行動にも「そうせざるを得ない」理由があるという前提で、共感的な理解を図り、一人一人に応じた適切な指導を進めていくことで児童は安心し、心を開いて語り始めます。

教員は、児童の心の状態や気持ちの変化を読み取り、わずかな変化や違いに気付く観察力を磨き、問題が複雑かつ解決困難になる前に早期発見・早期対応していくことが重要です。

また、保護者との間で、学級通信や連絡帳、保護者会や家庭訪問等の方法により、コミュニケーションを重ねることで、児童理解や生徒指導の在り方について共通理解を深め、開かれた学級経営を進めていくことが大切です。

- □　計画的な資料収集と客観的な資料解釈・教育相談
- □　家庭や地域との連携
- □　温かいコミュニケーションによる信頼関係の構築

円滑な学級経営を支える生徒指導チェックリスト

最近の１週間ほどを振り返って、先に掲げた生徒指導の３つの視点から、自分の学級経営について確認してみましょう。

		４:よくしている　３:時々している　２:あまりしていない　１:ほとんどしていない	自己評価				参照頁
視点１ 好ましい人間関係づくり	1	一人一人が安心して学級生活を送れるようにルールづくりをしたり、規範意識を育んだりしていますか	4	3	2	1	Q1
	2	温かい雰囲気をつくるための働きかけや機会の設定をしていますか	4	3	2	1	Q2 事例1
	3	温かい雰囲気をつくるための言語環境を整えていますか	4	3	2	1	Q2 事例1
	4	学級の様子について、客観的な視点から助言を得ていますか	4	3	2	1	Q3
視点２ 一人一人の居場所づくり	1	学級目標を活かしながら、帰属意識を高めていますか	4	3	2	1	Q4
	2	自己存在感を味わえる授業づくりに心がけていますか	4	3	2	1	Q6 事例2 事例3
	3	一人一人が学級に欠かせない存在となる係・当番活動の工夫をしていますか	4	3	2	1	Q5
	4	お互いの存在を大切にする働きかけや機会の設定をしていますか	4	3	2	1	事例2
視点３ 自分らしさが輝く場面づくり	1	一人一人の自分らしさが表現されるような活動の工夫をしていますか	4	3	2	1	Q7 事例4
	2	自分の良さに気付く働きかけや機会の設定をしていますか	4	3	2	1	Q7
	3	自己決定の場を与えるような授業づくりに心がけていますか	4	3	2	1	Q6 事例3
	4	仲間の思いや願いを受け止めながら、主体的に取り組める働きかけをしていますか	4	3	2	1	事例5

３　円滑な学級経営を支える小学校生徒指導のヒント

Ｑ１　一人一人が安心して学級生活を送れるようにするには、何が必要ですか

４月当初、新しい先生や仲間に囲まれ、不安を抱えている児童がいます。まずは児童の言動を丁寧に受け止めること、温かい言葉掛けや配慮が必要です。その一方で、みんなが気持ちよく毎日を過ごせるためのルールづくりに力を注ぎます。「自分たちで決めたルールだから守ろう」という意識をもたせることが大切です。

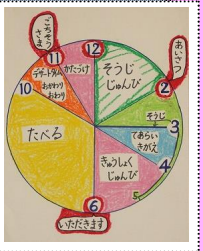
実践１　誰だって間違えるときがあるんだよ【低】

発表しようとして間違えた。「はい」と言って立ったけれど、何を言いたかったのか忘れてしまった。みんなに笑われるのではないかと、怖くて児童は下を向いてしまった。そんなときは、「誰だって間違えるときがあるんだよ」「ふっと忘れてしまうことがあるよね」と言う。

〈失敗したときこそチャンス〉
- 失敗を素直に認め、その後どのように行動すればよいかを考えさせたい。
- 「失敗しても、失敗を生かして成長してくれることがうれしい」と願いを伝えたい。

実践２　給食のルールを決める【低・中・高】

４月の給食指導で、おかわりの方法や減らし方、片付けの時間をはっきりさせたい。また、給食中の言動を丁寧に観察したい。「牛乳ちょうだい。」「今度デザートあげるからこれを食べて。」といったやりとりが、いじめや仲間外れにつながる怖れがある。



実践３　こそこそ話はしない【高】

教室の片隅で数人が集まって内緒話をしている。

誰でも、内緒話をしている人を見るのは気分が良くない。たとえ、自分のことを話していなくても、自分の悪口ではないかと心配になる人もいる。

みんなの前で話せない内容には悪口やうわさ話が多い。内緒話は、周囲の人に不快感を与える行為として、慎まなければならないことを伝える。

児童は、学級開きから１週間で許されるルールの幅や教師がどこまで要求を受容してくれるのかを試そうとする。

年度当初から一貫性のある指導を心掛け、児童への願いを語り、関係を作り上げながらルールを浸透させていきたい。

学級のルールづくりのポイント

- □　学校・学年のルールと整合性が保たれているか。
- □　児童が、学級を良くするための必然性を感じていることをルールとしているか。
- □　児童の成長に合わせて、学級のルールを見直す話合いの機会を設けているか。
- □　叱るときに明確な基準を設けているか。
  - 例えば　・命やけがにつながる行為をしたとき
  - ・悪口や嫌がらせなど、いじめや差別につながる行為をしたとき
  - ・同じことを３回指導されても改善されないとき
- □　ルールを守ることの大切さに気付かせる活動や言葉掛けをしているか。

Ｑ２　温かい学級の雰囲気づくりを、どのように進めたらよいですか

学級の中で使われる言葉が学級の雰囲気を左右します。児童がいろいろな友達と関わり、お互いの良さを認め合える機会をつくるとともに、仲間への温かいまなざしや心遣いを言葉として引き出す一方、児童では気付かないさりげない優しさを教師が認め、学級の良さとして評価することが大切です。

実践１　「ありがとう握手」で明日も元気！【中】

帰りの会の最後に、男女各５人ずつと握手する。必ず笑って「今日も一日ありがとう」と声をかける。

「明日もみんなと会いたいな」という気持ちを育む。他にも「明日もよろしくハイタッチ」や「じゃんけん握手」を行っている。

＜背面黒板による呼び掛け＞

背面黒板に心に響く言葉の呼び掛けを行う。

空いているところに、季節に合ったイラストを入れて、気持ちを和らげるようにする。

実践２　ありがとうリレー【低・中】

日直が帰りの会で、一日を振り返り、友達に「ありがとう」と言いたいことを発表する。手作りのバトンを手に持ち、明日の日直へとバトンがつながっていく。

「今日のお昼の休み時間に、○さんたちが一緒に遊んでくれました。ありがとう」

実践３　すてきな言葉の実【高】

その日に友達から言われた「すてきな言葉」を発表し合い、出されたものを「すてきな言葉の実」として掲示していく。

「牛乳をこぼしたときにふいたぞうきんを、○○さんが『だいじょうぶ？』と言って洗ってくれました。うれしかったです」

温かい学級の雰囲気づくりのポイント

- □　言葉を大切にするということは、その言葉を発している人を大切にすることだという意識を浸透させているか。
- □　教師自身が丁寧な言葉遣いに努めながら、言葉の指導をしているか。
- □　Ｑ－Ｕアンケート等により、学級に対する居心地の良さを診断しているか。
- □　学校や学年、学級の行事では、友達の良さに気付かせたり、自己肯定感を高めたりするためのねらいをもった声掛けや評価をしているか。

Ｑ３　担任では気付かない学級の成長や課題は、どうとらえたらよいですか

児童の中には、積極的に教師に関われる児童もいれば、関わろうとしない児童、関わりたくてもできない児童など様々です。また、児童同士の関係についても、担任がすべてを把握しているとは言えません。風通しの悪い学級王国にならぬよう、学級に関わる多くの教師や大人、児童から情報を収集し、学級経営に生かす姿勢が大切です。

実践１　養護教諭からの情報収集

保健室は、いつでも誰でも利用でき、児童にとっては安心して話を聞いてもらえる場になる。気になる児童の有無に関わらず、養護教諭とコミュニケーションをとり、情報を共有するようにしている。また、休み時間の後や体育の授業後には、保健室をのぞくようにしている。たびたび見かける児童は、何らかのサインを発していると受け止めている。

健康診断を終えた時期、保護者会の前などは、養護教諭と情報共有する効果的なチャンスである。

静かな個室におけるカウンセリング

実践２　スクールカウンセラーからの助言

前年度から問題を抱えていたＡ児であるが、他の教師との連携や運動会への取組を生かした指導により、生活が落ち着いてきた。ところが、夏休みを前に、グループに加わらず、授業を妨げたり、嫌がらせをしたりする行動が出てきたため、スクールカウンセラーに相談した。

スクールカウンセラーの助言を参考にＡ児への対応について、他の教師と次の確認をした。

・友達に謝る方法は手紙など間接方法も認める。
・追い詰め過ぎず、温かく見守る期間を設ける。

「平成 24 年度版スクールカウンセラー・ガイドライン（愛知県教育委員会）」を参考にするとよい。

実践３　保護者からの声

学習発表会や授業参観など、保護者に児童の姿を見てもらえる折には、感想用紙を用意し保護者からの声をまとめ、学級経営を振り返る資料としている。

用紙には、そこに至るまでの児童の思いや取組の様子などを添え、結果としての姿だけではなく、取組の過程を踏まえての声がいただけるようにするとよい。

担任では気付かなかった視点から、児童にとって励みになる声や次の活動に向けての意欲につながることを紹介することができる。

学級を偏りなく育てるポイント

□　授業に入っている教師や学年の教師、養護教諭、委員会の担当者など、学級の児童が関わっている教師の話に謙虚に耳を傾けているか。
□　児童や保護者の言葉に耳を傾け、その思いを敏感に感じ取ろうとしているか。
□　結果だけを問題とせず、問題行動等の起こり方や表れ方に目を向けているか。
□　問題行動等を担任だけで抱え込まず、相談をし、チームで迅速に対応しているか。

Ｑ４　学級目標を大切にするには、どうしたらよいですか

児童が常に目にする学級目標は、児童一人一人の学級への思いや願いが凝縮され、常に自分たちの今を振り返るキーワードでありたい。教師は、学級に対する思いや願いを語り、学級目標を作るための時間を確保し、一年間の見通しを児童と共有することが大切です。

実践１　がんばりが目に見える学級目標【低・中】

学級目標が分かる教室掲示を工夫する。「声出そう　つなごう心！」は１枚ずつのカードになっている。声を掛け合い頑張った姿が見られたとき、「声」「出」「そ」「う」「つ」「な」「ご」「う」「心」「！」と順に１枚ずつカードを貼り重ねていく。「声」からスタートし、最後の文字「！」まで到達すると、「※」に１周記念のカードを貼る。そして、２、３周目に入る。

児童が、学級目標を意識して行動するための環境づくりである。

児童の中には、視界に入るものに対して、大きく感情を動かされる子がいる。教室正面の掲示は必要最低限に留め、大きな掲示は背面を活用したい。

実践２　学級全員で級訓づくり【高】

1　学級全員が「こんな学級にしたい」を考える。
2　学級会で発表するとともに、一人一人が書き残す。
【例】どんなことも力いっぱいがんばる学級（児童名）
3　学級への思いをまとめ、級訓の候補を考える。
4　級訓の候補とそれに込めた思いを発表し合い、三つ程度に絞る。その際、担任は級訓づくりや級訓に込める思いを話す。
5　級訓の候補について、児童の思いを話し合い、級訓を作り上げる。

イソップ物語「蟻と鳩」の話のように協力できる学級を目指す意味が込められた背面掲示物

「どんな級訓がぴったりかなあ」と問い掛け、一人一人が自分の考えをもてるように、具体的な場面や様子からじっくりと考えさせたい。

学級目標を大切にするためのポイント

- □　学級開きの原点に立ち返ることができる分かりやすい行動目標となっているか。
- □　定期的に学級目標を振り返る時間を設定し、児童の思いを確認し合っているか。
- □　達成状況によって、新たな目標に変更していく柔軟さがあるか。

Ｑ５　係・当番活動は、どんなことに留意するとよいですか

係活動は、誰かがやってくれたら学級がより良くなるものです。当番活動は、誰かがやらないと困るものです。いずれも、児童の経験と良さを生かし、認め合うことのできる活動場面とすることが大切です。自らが学級の一員であるという意識、誰もが学級にとって大切な存在であるという意識を育てることをねらいとします。

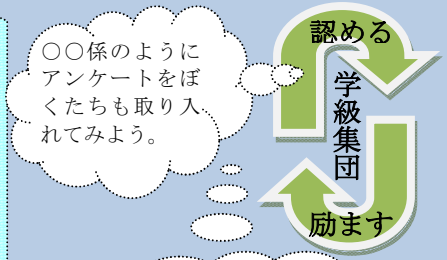
実践１　アイディアいっぱいの係を作ろう【中】

① 係決め
「どんな係があるといいだろう。この学級だけの新しい係を作ろうよ」

② 係の掲示物づくり
「楽しい係の名前を考えられるといいね」
「係の仕事を分かりやすく書こう。いつ、どこで、誰が、何をするのかを考えて書いてみよう」

③ 「お知らせコーナー」設置
「ここは、係で使ってもよいところです。みんなが知らせたいことやお願いを書いて、掲示しよう。係の新聞やクイズを掲示してもいいですね」

時折、係活動を見直す機会を設ける。各係の仕事紹介の掲示物に「ありがとうシール」を教師が貼り、評価していくのもよい。児童相互の評価を取り入れるのもよい。



○○係のようにアンケートをぼくたちも取り入れてみよう。

○○係を参考にするのはよいことですね。さっそく作ってみよう。

実践２　当番活動は「一人一役」【低・中】

「一人一役」の仕事札を作り、係活動のコーナーに掲示する。自分の活動が終わったら、名札を裏向きにするよう指示しておく。

「みんなが生活する学級を気持ちの良い過ごしやすい場所にするためには一人一人の役割と責任が大切です。自分の仕事は責任をもってやりましょう」と話す。

活動を通して、誰もが学級にいなくてはならない存在であることを理解させたい。

係・当番活動のポイント

- □ 児童の発想が重視され、創意工夫が見られるか。
- □ 児童が、学級のために役立つ活動の喜びを実感しているか。
- □ 児童が、活動内容に主体的に取り組み、学級の中に自分の居場所を見付けることができているか。
- □ 児童の帰属意識を高める掲示物となっているか。
- □ 児童にとって大きな負担とならず、継続的に活動できる内容となっているか。
- □ 十分な活動時間を設け、定期的に活動内容を振り返っているか。
- □ 活躍を見逃さず、全体の前で褒めているか。

Ｑ６　授業では、どのようなことに心がけたらよいのですか

学校生活で最も多くの時間を占める授業では、全ての児童が自分の存在感を感じたり、主体的に取り組んだりできるように努めなければなりません。また、児童が互いに「つながっている」と感じられるようにすることが大切です。聞き合い、話し合う中で互いの良さに気付き、認め合える関係を築いていきます。

実践１　つぶやきや表情の変化を捉える【全】

つぶやきを聞き取る教師でありたい。授業展開に生かしたり、児童との関係づくりやコミュニケーションのきっかけとして生かしたりしたい。

◆「〇〇ってどういうこと？（つぶやき）」
→いい疑問だなあ。〇〇君はどう考えるの？
→先生も分からないなあ。みんなはどう？
→給食を食べたら一緒に調べに行こうか。
→そうか。ちょっと調べてみようかな。みんなも分かったら教えてね。

友達の発言を聞いているときの「えっ？」「おやっ？」という表情の変化や目の動きなど、小さな動きに気付く教師でありたい。
→〇〇さん、今思ったこと話してくれる？
→〇〇君、何か言いたいことがあるね。

＜授業の中で使いたい言葉＞

- 友達の話は最後まで聞いてあげようね。
- 自分の言葉で話してごらん。
- 〇〇さんとどこが違うのか話してくれますか。
- 〇〇君だからこそ気付けたことだね。
- 〇〇さんは、みんなに何が伝えたいのか分かる？話している〇〇さんの顔をよく見てごらん。

実践２　仲間の発言に対するつなぎの言葉を豊かにする【全】

＜他の考えと共感的に語る場合＞
- 付け足しですが～
- 〇〇君に似ているんだけど～
- わたしも思うんだけど～
- 〇〇さんが言ったように～

＜他の考えと異なる場合＞
- それもあると思うし～
- ちょっと違うんだけど～
- さっき〇〇君は～と言ったんだけど、僕は～

教師が児童の考えをつなぐ

授業における生徒指導のポイント

□　君、さん付けで、名前を呼び、一人一人を大切にしているか。
□　よい姿をほめ、好ましくない姿は正すようにしているか。
□　児童一人一人が、自分の考えをもつことが全ての始まりである。友達につられて「同じです」と言っている児童はいないか。
□　小グループでの話合いを授業に取り入れ、机間指導で児童の考えを把握し一人一人を生かしているか。
□　つぶやきを授業に生かしたり、よい考えの児童に発言を促したりしているか。
□　「たとえば…」「わたしの場合…」等、例を挙げたり、生活経験をもち出しながら、具体的に述べることを身に付けさせようとしているか。
□　発言をつなげ、集団での学び合いとなるようにしているか。

Ｑ７　一人一人の自分らしさは、どのようにしたら引き出せますか

先生や友達が自分のことを分かってくれているという感覚は、主体的に取り組む意欲を引き出します。教師は、児童一人一人の良さ、好きなことや得意なことを捉え、その子が輝ける場面を見通し、担任以外の先生や他学年の児童、地域の大人などから認められる機会を設けたり、その時の思いを言葉で表現させたりすることが大切です。

実践１　プロ免許状【低】

言葉で認めるだけでなく、手作りのプロ免許状を手渡す。そうじプロ第１号のＡ児は、そうじの時間になると、その免許状を名札に付け、そうじの腕を振るう。みんながプロを目指してがんばるが、その道のプロへの道は険しい。一人一人の得意な分野でプロ免許状を渡そうと計画しているうちに、漢字プロ、お話の聞き方プロ、給食プロ、鉄棒プロなど、いろいろな色のプロ免許状ができた。

実践２　「かがやきカード」（行事への取組）【中・高】

運動会における「かがやきカード」の実践

運動の技能だけでなく、練習に取り組む姿勢や会場の準備・片付けなど、誰がどのように頑張っていたかをカードに書かせる。

カードを書く相手が偏らないよう、練習日ごとに生活班を指定し、そのグループの子には、必ず「かがやきカード」を書くようにさせる。

練習中の友達の態度にも目を向けさせたことで、どの児童にもたくさんの「かがやきカード」が届き、一人一人が本番に向けて意欲をもつことができた。

「君こそスターだ！」と題して「かがやきカード」を背面黒板に掲示

実践３　異学年との交流【高】

縦割りによる２年生との関わり

集会ごとに２年生とペアを組んで活動したり、ペア読書により読み聞かせを行ったり、高学年になったことを意識させるようにする。

同学年の中では、気ままな行動の目立つ児童も、低学年相手であると、優しい言葉掛けや行動をしている姿を見ることができる。「ありがとう」と言われ、うれしそうにするほほえましい光景もたくさん見られる。

異学年交流では、「何をしたのか」ではなく、「誰の」「何を」育てるために、「どのように」取り組みを行うのかを明確にすることを大切にしたい。

一人一人の自分らしさを引き出すポイント

- □　どんな発言や発想も切り捨てず、認めているか。
- □　いろいろな人から頼られたり、認められたりする場を設定しているか。
- □　話形は一つの型であり、自分の知っている限りの言葉を使って、相手に伝えようと懸命に話す姿が何より美しいという認識をもっているか。

児童理解に支えられた実践事例　１

交流児童との関わり合いを生かして学級集団の心を育てる

～交流児童Ａ児との関わり合いを通して気付かせたい本当の思いやり（５年）～

１　交流児童Ａ児

・Ａ児は、基本的に実技教科（音楽・図画工作・家庭・体育）と、道徳・総合的な学習の時間については交流学習とし、給食については毎日教室に来ている。

・Ａ児は、こだわりが強く、感情のコントロールが難しい児童である。しかし、教室の中では、特別支援学級での様子とは少し違い、皆と同じように活動したいという思いが強く、自分を抑えようとする姿が見られる。

２　自他理解の環境づくりと実践

良いところ探しの取組（５月～３月）

［自然教室を終えて…］

各教室に掲示パネルを設置し、個々のスペースに貼り重ねていく

（　　）くん　さんの
よいところを　見つけたよ
○○さんが、いつもテントから
出るときにしめてくれました。みん
なが「めんどくさい」と思っている
こともやってくれた。私は○○さん
をみてやさしいと思った。
名前（　　）

（　　）くん　さんの
よいところを　見つけたよ
○○さんは、物品係だけど、リ
ーダーみたいにだれかがまちがえ
ていたりすると、やさしく注意をした
り、きびしいところもあったけど、
班の中で一番キャンプのことを知
っていたのは○○さんだなと思い
ました。　名前（　　）

「○○さんのよいところを見つけたよ」「がんばったよ！」「○○さん・君のよいところをみつけたよ」の３種類のカードがあり、友達へ・頑張った自分へ・我が子へと、それぞれ学校行事や学級の取組に合わせてカードを書く、という活動を全校で取り組んでいる。

自尊感情を高め、自他理解を深めていこうというねらいがある。

スマイルさんの発表（５月～３月）

帰りの会でその日感謝したい友達に、ありがとうを伝えるコーナーを設定した。

「今日○○さんが図工の片付けをしていたら、手伝ってくれました。ありがとう」「どういたしまして」

スマイルゲームの取組
（９月～１２月）

エンカウンターのショートエクササイズで「スマイルゲーム」と名付け積極的に実施した。Ａ児も楽しんで級友と交流できた。

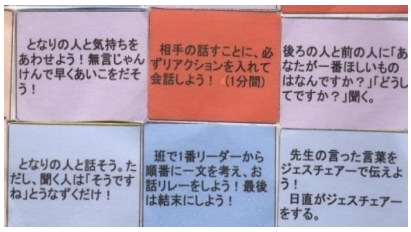
児童の様子

ＳＳＴの実践（９月～１２月）

第１時「いろんな気持ち」（９月）
第２時「あいづちトーキング」（９月）
第３時「こんなときどうする？」（10 月）
第４時「無人島ＳＯＳ」（11 月）
第５時「ＳＳＴの学習のまとめ」（11 月）

◆ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）とは

より良い人間関係づくりを目指して継続的に実施。ロールプレイを行いながら、様々な場面設定で、人との会話や接し方を学ぶ授業。



ミニゲームのカード

スマイルノートの変容（５月～３月）

① 道　SST をやるので参加を！
２ 国 授業やります。
　　書写ありません。
３ 算
４ 社
⑤ 体 外でやります。
⑥　　〃
　　よろしくお願いします

いつもいつも本当にありがとうございます。組体操もかなり「ガマン」してできるようになっていて、仲間の力で大きく成長させてもらっていると実感します。

学級担任からＡ児の担任へ

11／26
今日、Aちゃんが教室にいた時間は、給食とSSTと音楽だったね！！
月よう日、図工と朝会のときだね☆
よびにいくね～。　　〇〇より

学級児童からA児へ

担任同士による交流活動の記録や翌日の連絡の記録から、学級児童とＡ児との交流へと変化が読み取れた。

さらには、Ａ児の保護者との懇談会で、交流学級での様子を伝えるのに役立つ記録となった。

「運動会の組立体操日記」から（１０・１１月）

「私が今日えらいなあと思ったのはＡさんです。前まで地面に石が落ちているからはだしをいやがっていたけれど、今日はどんどんがんばっていました」　（Ａ児とペアのＢ児の日記より）

「（略）特にタワーができた時はすごくうれしかったです。ピラミッドの時もＡ君がすごくがんばっていました」
（Ｂ児の本番当日の日記より）

「最初は緊張したけど、Ａ君が今日は本番だから成功させてかっこいいところを見せてあげよう、って声をかけてくれました」　（Ｃ児の本番当日の日記より）

初めは「つらい、しんどい、暑い」といった内容が多かったが、しだいにＡ児とペアを組むＢ児の日記にＡ児の頑張りや、変化を書き留める内容が見られるようになった。

また、特別な支援を要するＡ児の失敗が許せなかったＣ児の日記には、本番の日にＡ児に励ましの言葉を掛け、それに一生懸命応えたＡ児の姿があった。

授業参観でのポスターセッションから（１１月）

組立体操でA児と一緒だったＢ児が、A児に台本を渡した。それには、A児のせりふと番号が書いてあり、A児がせりふを言うタイミングに困った時に、隣から「〇番」と教えられるようにと、考えられた工夫がしてあった。本番では、練習に十分参加できなかったA児も周りのサポートを得ながら安心して発表することができた。

「A児を変えるのではなく、周りが変わることが大事だ」と考え、始めた様々な実践であったが、最後には、A児に小さなうれしい変化が見られた。教師に指示されることを嫌い、一方的な関わりになりがちだったが、互いの心を通わせ合う本当の交流ができるようになってきた。

人権週間ポスターの取り組みから（１２月）

A児は、お気に入りの本から好きなキャラクターを三つ選び、黙々と描いていたが、「三人だけじゃ寂しいから、友達にも好きなキャラクターを選んでもらって、仲間を描いてみたら？」と助言すると、パッと顔が明るくなり、すぐに立ち上がって自ら級友に関わりに行った。聞かれたD児も手を止めて、A児が手に持つ本を一緒にのぞきこんで答えていた。A児はそれを鉛筆で記録しながら次々と聞いて回り、戻って来た後は、描き足すキャラクターを決めて、また描き始めた。

児童理解に支えられた実践事例　２

特別な支援を必要とする児童に寄り添い成長を支える
～発達障害のあるＡ児の笑顔を求めて（４年）～

授業での見取り①（４月）

＜Ａ児＞
- 座席の近い男子からのからかいが多く、それに対して反撃をしようとする態度を取るなど落ち着かないことが多い。
- 授業中はノートを書かず、筆記用具に触れて遊んでいる。
- 休み時間中は、一人で掲示物を眺めたり、大好きな図書室で過ごしたりしている。

《対応》
男子からのからかいは、Ａ児が周囲とのコミュニケーションをうまく取れないことが原因の一つであった。そこで、関わり合いをうまく持てるよう、グループ活動を重視した授業展開を多く取り入れるようにした。落ち着いて授業に臨めるよう、座席を黒板に近い位置にする。

座席位置の工夫

〔手だて１　グループ作りの工夫〕
社会見学や実習等、グループでの活動を入れやすい学年である。グループ作りの際、必ずグループになったことがない児童同士でグループを作るようにした。

家庭訪問での親からの聞き取り（５月）
- 障害についての報告（現在も通院している。）
- 成績は悪くないが、医師から記憶力で補っていると言われ、その容量がいっぱいになってしまった時のことを考えると不安になる。
- 近所に同じ学年の児童が少ないということもあるが、幼いため、一つ下の学年の児童と遊ぶことが多い。
- 家でも時間通りに行動できないため、学校での様子が気になる。

《目標設定》
母親からの要望をもとに、
- 学校では時間の管理ができるようにすること
- 授業に臨む姿勢を整えること
- 同学年の児童とスムーズに交流すること

以上三点を指導の重点としていく。

ふれあい週間での教育相談①（６月）

〈本人から〉
- 学校は楽しい。男子は好きじゃないけど、女子は好き。
- 学級以外の関わりで悩みがある。（通学団について）

〈周囲から〉
- Ａ児が男子にからかわれているのがかわいそう。

《本人の変容》
機嫌が良いときには、話しやすい男子児童にもあいさつをしたり、隣の席の男子児童にも話し掛けたりする場面が見られるようになった。クラスに安心感を抱くようになり、４月より落ち着いてきている。

〔手だて２　トラブル時の約束〕
〈Ａ児〉
- 話し合う時は、相手の顔を見て話す。（集中する。）
- 起こった出来事を隠さずに話す。（ごまかさない。）

〈周囲の児童〉
- Ａ児がトラブルを起こしても注意するのではなく、サポートをする意識をもつ。

《周囲の変容》
Ａ児がパニックになり泣き叫んだり、自分の思いが伝えられなかったりしたときには、以前は責めるだけだったが、落ち着いてＡ児の考えを導くように対応できるようになった。

授業での見取り②（９月）

・父親が購入してくれたお気に入りのペンを常に使い、分解することに楽しみを感じ始める。
・４月と同様に、授業中ノートをとることが少ない。
・自由研究の発表等では声は小さいが、身振り手振りを使って上手に発表をする。

《手だて》

ノートをとる習慣を付けさせる。

・机間指導での助言・励まし

机間指導の際には、机上の整理を繰り返し指導する。また、板書内容の重要箇所を個別指導するなどして、A児が持続して書くことができる量を考え指示する。

・問題数への配慮

算数の練習問題では、取りかかりに時間がかかるため、問題数を減らして解くよう指示し、成就感を与えた。

グループ活動の見取り（９月）②

〈総合的な学習の時間「いちじくジャム作り」〉

男女混合の４人グループで協力してジャム作りをした。不慣れな手つきではあるが、いちじくの皮をむいたり、材料を混ぜながらジャムを煮込んだりする中、A児が笑顔で活動する様子が見られた。

できあがったジャムも４人でけんかをすることなく、分け合うことができた。この実習を通して、本人も周りも満足することができた。

《周囲の変容》

苦手だと話すB児も、トラブルはあるもののグループ活動の中ではA児を支援する様子が見られていた。そのまま負担にならないよう力になってほしいと伝えると納得してくれた。４月当初とは違い、学級内の男子児童もA児を少しずつ受け入れられるようになっていった。

ふれあい週間での教育相談②（１１月）

〈本人から〉

授業に集中して臨むことや時間（特に給食を食べ終わる時間）を守ることを改めて目標にした。

〈周囲から〉

A児をよくからかうB児に話を聞く。

泣き叫んだり、グループでの活動の際自分勝手に行動したり、迷惑を掛けられるのは嫌だけれど、協力はしていきたい。

教育相談の様子

《本人と周囲の変容》

発達障害があることを本人も周囲も知らないため、この話合いでA児が指摘された内容は、障害の特徴であった。A児は、今まで自分がどう行動すべきなのか分からないでいたが、友達からの指摘を受けて、自分の力で頑張ってみること、できないことがあれば協力してほしいことを自分でグループの児童に伝えることができた。

トラブル時の見取り（２月）

清掃時、A児が自分勝手な行動をするため、グループのC児とトラブルが起きた。清掃時から休み時間を使って話し合いをし、それぞれの主張から解決の方法を考えた。A児にはわがままなところがあるが、グループとしてお互い協力し合っていく姿勢が生まれた。

児童理解に支えられた実践事例　３

誰もが安心して過ごせる教室環境をつくる
～通常学級において特別な支援を行うことによる居場所づくり（２年）

＜Ａ児＞

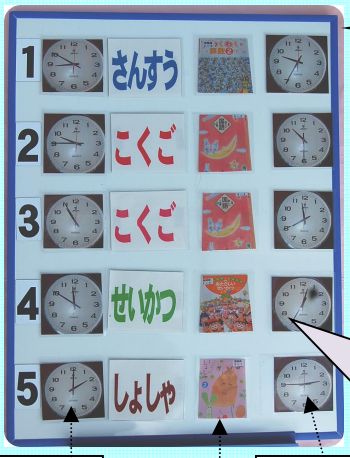
自己中心的な行動が多く、発言したいときに発言する。やりたいことを押さえられずに行動に移してしまう。その結果、ルールが守れずに、人間関係をうまく築くことができないためにトラブルが絶えない。

＜Ｂ児＞

全体で指示を出したことが伝わらず、行動が遅れることがしばしばある。こだわりが強く、熱中すると止まらない。

①　学級での居場所づくり

見通しをもった生活を送るために、「いつ」「どこで」「何を」「何が必要か」などの一日の流れを表示する。

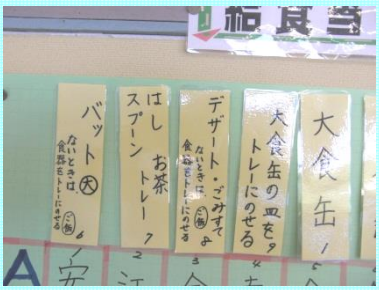


① 時計をなくす
↓
② 教科書の写真をなくす
↓
③ 活動場所等の新たな項目を増やす

Ｂ児は、一日の流れもはっきり分かり、急な時間割変更にも柔軟に対応するゆとりをもつことができるようになった。指示待ちの面も解消され、主体的に行動できるようになった。

スモールステップを意識した掲示とする。児童の成長に応じて手立ての方法を代えていく必要がある。１年間同じ掲示物とする必要はない。

給食当番や掃除当番などの役割をはっきりさせることで安心感が生まれ、学級での居場所も生まれる。

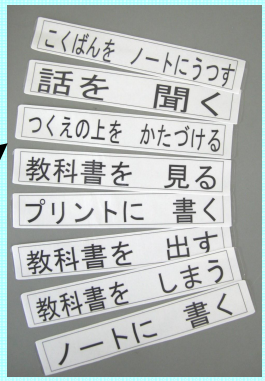


Ａ児は、当番活動の細分化により自己中心的な行動が抑制できるようになってきた。

② 授業での居場所づくり

学級の全員が参加する授業の実現に向けて、特別に支援の必要な児童が、周りの児童と共に学習活動に取り組めるよう、いかにして学級集団の学習意欲を高めるかという視点から考えた。

今は何をするのかを、全体への指示と同時に、言葉とイラストで書かれたカードを掲示することで視覚に訴える。



＜個別指示カード＞

机間指導をする際、教師の指示で全体の集中力を途切れさせないため、また個々に対する適切な指示を通し、学習活動内容を理解させるために使用する。

B児

個別に指示が出せて、授業への参加意識も高まった。

＜順序付け（グループで番号を割り振り、活動する／一人一役）＞

一部の児童の活躍ではなく、全員が活躍するという場面を設定した。

A児　普段は「自分が」という気持ちが強いが、順番で活動するため、他の子が指名されても見守ることができた。また、消極的な児童にとっては、順番で活動する場面があったので、特別な支援を必要とする児童だけでなく、全員が効果的に活動できた。

特別な支援を必要とする児童が、学級への安心感を抱き帰属意識を高めることで、集団が一つにまとまってきた。また，学級経営のみならず授業においても、特別に支援を必要とする児童に対する手立てが、学級全体への手立てにもつながっていた。一つの手立てにこだわるのではなく、個のニーズに応じ、また常に発展していく手立てを生み出していくことが大切であることを実感することができた。

居場所づくりのポイント

①学級での居場所づくり　②授業での居場所づくり

学級での帰属意識の高まりや安心感

学校生活での役割、責任、活躍

授業での参加意欲、活躍

一日の落ち着いた生活　見通しをもった生活

児童理解に支えられた実践事例　４

学級での居場所づくりを通して、自分を表現する姿を引き出す

～言葉で伝えることが苦手なＡ児の居場所づくり（６年）～

＜４月当初のＡ児＞

・友達の気にしている嫌なことを言ったり、理由もなく手を出したりする。
・友達から借りた物を返さなかったり、気に入った物を勝手に持っていったりする。
・家庭学習をやらず、忘れ物が多い。また、吃音があるためか発言が少ない。

家庭訪問をして(５月)

・父親の仕事の関係で生活が不安定。
・家の掃除が行き届かず、Ａ児は独特の臭いがする。
・母親は重度の障害がある弟に手がかかり、Ａ児の世話があまりできなかった。
・児童相談所に世話になっていた。

Ａ児は、友達と関わりたい気持ちはあるものの、生育歴において相手の気持ちを考えた言動をとることなど、関わるための力を身に付けられずにいる。お互いを認め合うコミュニケーションの力を付けたい。

「話合い」の授業　　グループ討議（４～５人）

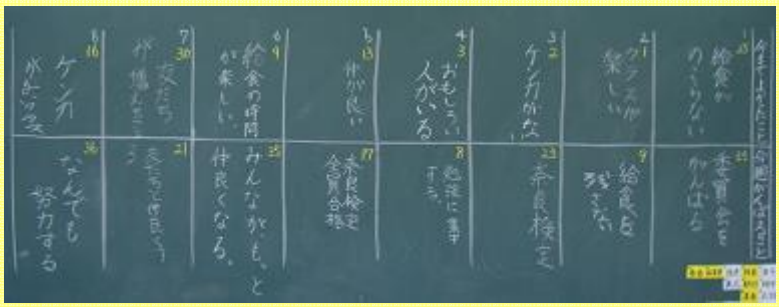
☆自由に意見や考えを言える話合いの雰囲気をつくる
☆話合いは楽しい、自分も参加できると思えるものにする

題　・６年になって良かったこと　・今週がんばること
　　・修学旅行の目標　　・修学旅行のおみやげ

ルール　・グループで出た意見の数を発表する
　　・友達の意見や考えには反対しない
　　・どの意見や考えも認める
　　・同じ人が連続して意見を言わない
　　・一番重要だと思う意見を黒板に書く

Ａ児は、グループでの話合いには進んで参加し、５人で意見を出し合うことができた。

この話合い活動では、よかったこと、頑張ること、目標など前向きな意見が出るような題にした。
ルールがあるので、Ａ児を始め全員が意見をたくさん言うことができた。



Ａ児の修学旅行振り返りプリントから（６月）

みんなとケンカしないで行けたことが良かった。
友達の良かったことは、Ｂさんは、堂々としていた。Ｃさんは、冷静だった。

Ａ児の体験活動を生かした道徳の時間

理科「自分の拍動と脈拍を計る」（６～７月）

◆メダカの尾びれを顕微鏡で観察し、血液の流れを見る。

・メダカの水槽の中に卵を見付ける

・卵を親とは別の水槽に移す

・子メダカがたくさん孵化する

人は心臓に助けられて生きているのだと思いました。心臓が動かなかったら死んでいたかもしれません。心臓をありがたく思いました。**A児の感想**

後半からは血液がよく見えた。よく見るとメダカは人間と同じと分かった。**A児の感想**

メダカの卵を見付けたことにより、子メダカが生きていけることなど、卵を取りながら、いろいろな話ができた。

Ａ児は、子メダカのえさやり係になり、毎日忘れずにえさをやっている。順調に成長し、子メダカが５０匹ぐらいになると、自分で考えて複数の水槽に移していた。

道徳「メダカが教えてくれたこと」（７月）

「メダカの血液観察」という体験を通して味わった感動や驚き、メダカの生命のはかなさについて資料を使って、「観察しなければ良かった」と「観察して良かった」に分かれ話し合った。

Ａ児は「観察しなければ良かった」の立場で話し合いに参加し、「血液の流れや体のつくりを教えてくれたけど、死んじゃったものは、もう生き返らないから」と発言した。最後に親メダカは、死んでしまったがＡ児が世話をしてきた子メダカはたくさん生きていて、命をつないでいることを確認して授業は終わった。世話をしてきたことで自己有用感をもつことができた。

道徳の時間のルール

1 心について考える時間

2 自分の思いを友達に伝える時間

3 友達の思いを受け止めて自分の考えを深める時間

4 発表内容に間違いはない

5 おふざけは許さない

6 自分の生活を振り返り、自分を見つめる時間

発言のしかた（５，６年生）

① ぼく（わたし）は、〇〇だと思います。
　理由は、〇〇からです。

② 〇〇さんに　つけたしで　〇〇〇〇

③ 〇〇さんと　ちょっとちがって 〇〇〇

④ 〇〇さんに　質問します。
　〇〇さんの　◇◇（という考え）で、そう思ったのはどうしてですか。ぼく（わたし）は、〇〇と考えました。

Ａ児は、メダカの世話を続けたり、水泳クラブに参加したりして、友達から認められる行動が増え、学級での居場所ができてきた。そうした環境の中で、発言のルールや道徳の心構えがあるため、道徳の時間は挙手し、自分の考えを言うことができるようになってきた。

児童理解に支えられた実践事例　５

人間関係づくりの苦手な児童を学級の仲間と関われるようにする

～自信をもち、友達に働き掛けるようになったＡ児（５年）～

＜４月当初のＡ児＞

・自分に自信がなく、常に周囲の目を気にして自分を出せずにいる。
・友達とうまく関われず、暗い表情でうつむき加減に過ごしていることが多い。
・分からないこと、困ったことを言えず、ごまかしたり隠したりしようとする。

家庭訪問（４月）での母親との懇談から

・他者の立場や気持ちが分からず、家ではわがままを押し通そうとし、パニックを起こす。
・自分の非が認められず、隠したり、嘘をついたりする。
・人とのコミュニケーションがうまくとれないため、学級での人間関係が悪くなっていくことが不安である。

＜母親の願い＞

・きちんと話を聞くことを含め、人との関わり方を学んでいってほしい。
・５年生としての基礎学力を身に付けていってほしい。

人間関係がうまく構築できないことから、「自分を理解してもらえない。自分はダメだ。」と感じ、学校生活に不安をもっている。

○Ａ児を学級の中で認められる存在にする。
○自分に自信をもち、自分を出すことができるようにする。
○不適切な行動（特に人間関係）に対しては、より良い対処法を納得できるように教える。

＜５年生の目標から＞（４月）

・算数と体育を頑張りたい。
・みんなとなかよく遊ぶ。

＜授業中の観察から＞（４月）

・できないこと、分からないことを隠す。

＜生活の観察から＞（５月）

・友達とのコミュニケーション不足からトラブルになる。

＜教師の思い＞

・本人の頑張りたいことを尊重し、支援していこう
・人との関わりをよく観察し、関わり方を丹念に指導していこう

・こまめに声を掛けよう
・言えたことを褒めよう
・頑張りを褒めよう
・みんなの前で認めよう
・両方の話をよく聞こう
・小さなトラブルも見逃さないようにしよう
・対処法を一つ一つ教えよう

本人の言葉

「そうやればいいのか」
「分かった。先生、ありがとう」

母親と共に教師に書いた手紙から

・人が嫌な気持ちになることは言いません。
・ちゃんと人の話を聞きます。

Ａ児の１学期の振り返りから

・算数で分からないときに、言えるようになりました。教えてもらうとよく分かってうれしいです。恥ずかしくなくなりました。
・漢字を何回も練習していい点が取れるようになりました。うれしいです。
・友達とちょっとけんかをしました。でも、今はしていません。友達の気持ちを考えたいです。

＜１学期間のＡ児の変化＞

・分からないことを言えるようになり、できるようになろうという思いをもって、学習に取り組む。
・にやにやしているのではなく、詰まりながらも受け答えをしようとする。
・表情が明るくなった。

・教師が、褒めて認めることで、学級の児童はＡ児を温かく受け入れるようになる。
・達成感を感じる経験をすることで、Ａ児が自信をもち、心にゆとりが生まれる。友達との関わりに余裕が生まれ、さらに頑張りが広がる。

＜Ａ児の変化＞

＜学級の変化＞

＜運動会＞（９月）
・組立体操で上に乗ることが怖くてできない。しかし、必死で取り組む。友達と練習してできるようになる。
○みんなと一緒に頑張りたい。

・「Ａ児、頑張れよ！」という児童や「Ａ児はすごく頑張ってるよ。」と応援する児童が多数出る。
・一緒に休み時間に練習を重ねる。
担任が良い関わりをもつ子を認める。

＜サッカー大会＞（１０月）
・Ｂチームのキーパーで今までにない頑張りを見せ３位。優秀選手賞に選ばれる。
・Ａチームを人一倍応援し、真っ先に給水の準備をする。
○みんなと一緒に頑張ると楽しい。

・達成感→自信→頑張り→達成感
・ＡチームのキャプテンがＡ児の頑張りを認め、よく関わりをもつようになる。学級の中でも、友達との関わりが広がる。
担任がＡ児を認める。

＜学習発表会など＞（１１月）
・どんなことにも進んで、頑張るようになった。
・一生懸命に歌えば歌うほど、表情や様子が独特のものになる。
○みんなの役に立ちたい。

・Ａ児はふざけているのではなく、一生懸命なのだということを理解し、頑張りを認めている。
担任が、お互いに認め合いながら頑張れるようになった学級を褒める。

＜体育の授業＞（１，２月）
・ソフトボールのチームキャプテンになり大きな声を出して働き掛ける。
・バスケットボールでは大きな声を出し、チームを盛り上げる。

・Ａ児の一生懸命さを認め、Ａ児の言動を寛容な態度で受け入れている。
担任が、個の成長、学級としての成長を認める。

Ａ児の母親からの手紙（修了式当日）

（略）５年生になった頃は、相手の気持ちを考えず自慢話をして友達とトラブルになったこともありましたが、この一年間に、相手の気持ちを考えて接することができるようになってきました。また、サッカーの試合の時にはＡチームの子の世話やバザーのボランティアをするなど、人の役に立とうとする気持ちも芽生えてきました。（略）本当にありがとうございました。

４　実践から見えること

本協議会の掲げる、小学校での円滑な学級経営を支えるための「３つの視点」と、その土台となる「児童理解」の観点から、県内の多くの事例を通して明らかになったことについてまとめました。

（１）好ましい人間関係づくりができる学級においては、教師が、４月当初からの計画的な働き掛けにより、学級風土を意図的につくっていることがうかがえる。

（２）一人一人の居場所づくりができる学級においては、教師が、以下の３つの居場所を意図的につくっていることがうかがえる。

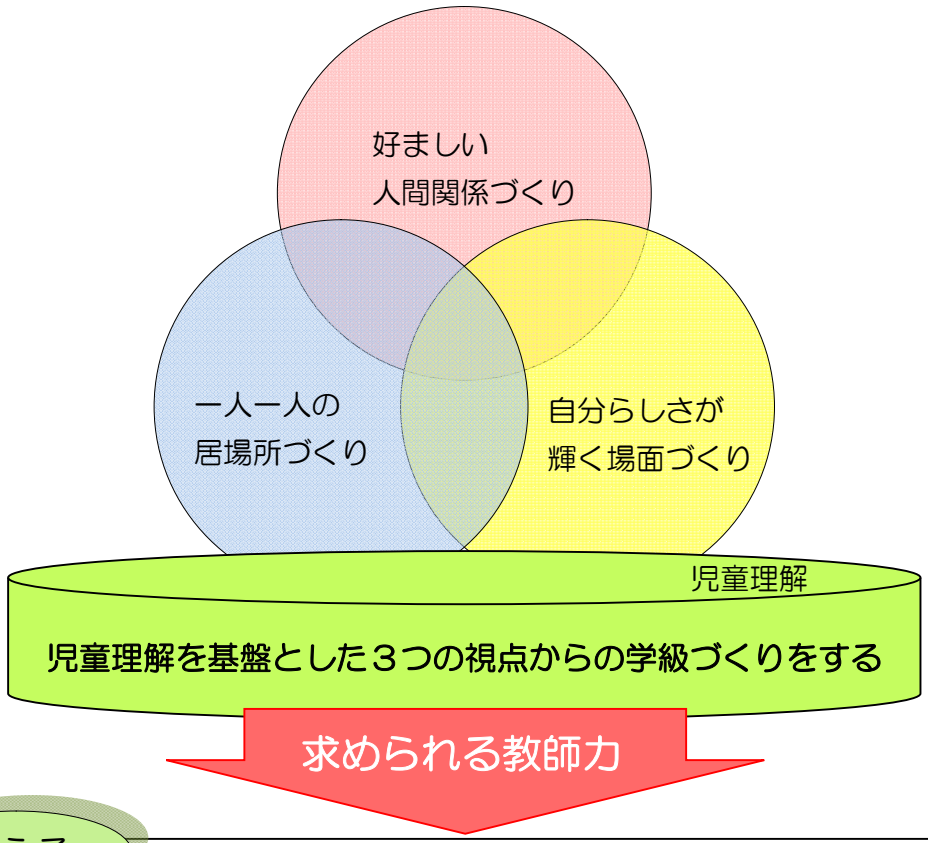
ア　人的な居場所づくり（安心できる先生、安心できる友達など）
イ　物的な居場所づくり（安心できる教室、安心できる保健室など）
ウ　授業・諸活動における居場所づくり
（分かる授業、やりがいのある係・当番活動など）

（３）自分らしさが輝く場面づくりができる学級においては、教師が、児童の主体的な言動を尊重し、他者から認められる場面を意図的に設定したり、支援したりしていることがうかがえる。

（４）３つの視点から円滑な学級経営が行われている学級においては、教師が、特定の児童だけでなく全ての児童に対して「まずはあなたの話を何でも聴くよ」という、一人一人の心に寄り添った理解に努めるとともに、保護者や他の教師、スクールカウンセラーなどと積極的に関わり、多面的な理解に努めていることがうかがえる。

（５）３つの視点から円滑な学級経営が行われている学級においては、教師が、一人一人の児童や学級集団の成長への思いや願いを具現化するために、学校内外における以下のような教育資源を意図的に生かしながら、個別支援と集団指導をバランスよく行っていることがうかがえる。

＜ひと＞ 児童、教職員、保護者、地域の様々な人材など
＜もの＞ 教室、施設、備品、地域の様々な場所など
＜こと＞ 授業、諸活動、地域の様々な行事や活動など



整える

一人一人の児童や学級への思いや願いが実現するように

- 見通しをもって、学校内外の教育資源を生かした条件整備をする。
- 個別支援と集団指導のバランスをとりながら、期待をもって児童の活動を見守るとともに、教師が積極的に関わる場面を見定め、適切に支援する。

例えば……

温かい雰囲気の学級をつくりたい

- 学級内の誰かが失敗したときの言葉がけを工夫しよう（P. 5）
- 温かい言葉に囲まれた教室掲示を工夫しよう（P. 6）

おとなしいA児がのびのびと過ごせる学級をつくりたい

- A児の特技が生かせる係・当番活動を工夫しよう（P. 9、P. 18～19）
- A児のつぶやきを授業で生かすようにしよう（P. 10）
- 母親と連携をとりながらA児を支援しよう（P. 20～21）
- 学級集団がA児の良さに目を向けられるように支援しよう（P. 20～21）

５　小学校生徒指導への提言

☞ 提言１　３つの視点から、学級づくりに取り組みましょう

＜視点１＞　好ましい人間関係づくり

４月当初からの計画的な働き掛けにより、学級風土を意図的につくりましょう。

＜視点２＞　一人一人の居場所づくり

人的な居場所づくり、物的な居場所づくり、授業・諸活動における居場所づくりを意図的に行いましょう。

＜視点３＞　自分らしさが輝く場面づくり

児童の主体的な言動を尊重し、他者から認められる場面を意図的に設定し、支援しましょう。

☞ 提言２　一人一人の思いを多面的にとらえ、児童理解に努めましょう

全ての児童に対して「まずはあなたの話を何でも聴くよ」という一人一人の心に寄り添った理解に努めましょう。

児童とのコミュニケーションはもとより、保護者や他の教師、スクールカウンセラーと積極的に関わり、多面的な理解に努めましょう。

☞ 提言３　３つの視点からの学級づくりを進めるため、教師の「整える」力を高めましょう

一人一人の児童や学級集団の成長への思いや願いが実現するように、見通しをもって、教育資源　※を生かした条件整備をしましょう。

個別支援と集団指導のバランスをとりながら、期待をもって活動を見守るとともに、教師が積極的に関わる場面を見定め、適切に支援しましょう。

※　教育資源

＜ひと＞　児童、教職員、保護者、地域の様々な人材など

＜もの＞　教室、施設、備品、地域の様々な場所など

＜こと＞　授業、諸活動、地域の様々な行事や活動など

６　小学校における実践レポート一覧

平成２２年度　小学校における実践レポート一覧

	学年	視点	概　　要
1	低	1	座席を決めることは、低学年ではとても重要　グループワーク・トレーニングの活用
2	低	1・2	「一人ぼっちは絶対作らない！」が合言葉　失敗を笑っちゃだめだよ
3	低	1・2	エンカウンター「ふわふわ言葉・チクチク言葉」 自己肯定感を育む「ありがとうカード」
4	低・高	1	給食は時間内に残さず食べよう　スーパーランチグループ結成　掃除は、きれいな道具で、みんなで力を合わせて
5	低・中	1・2	一人一人の違いを認める言葉がけ　一人一役の活動
6	低・中	1	「ありがとう」「ごめんなさい」から始めよう 「自分と友達大すきカード」で仲良くなろう
7	低・中	1・2	がんばりが目に見える学級目標　掃除の始めと終わりは円陣で
8	中	1	学級経営のカギは、学級のルールづくりから　わがままが表れやすい時間・給食指導で、これだけはやりたい！
9	中	1・2	朝の読書活動で一人一人の心づくり　違う出会いを生む意図的な座席の工夫
10	中	1	学級目標の掲示額の作成　先生が叱る時は「いじめをしているときや、いのちを大切にしないとき」
11	中	1	「ありがとう握手」で明日も元気！　どきどきの「がんばったね　メッセージ」
12	中	1・2	子供たちの意欲を高める係活動　いいところ見つけ「今日のキラリン」
13	中	1・3	自己紹介スピーチが学級開き２日目の宿題　当番活動は「一人一役」
14	中	1	時間を守ることは社会性の第一歩　いじめは小さなことから忍び寄る
15	中	1	休み時間は子供と鬼ごっこ　レクリエーションの企画・運営で問題解決能力を高める
16	中	1・2	アイディアいっぱいの係を作ろう　自発的な係活動を目指そう
17	中	1	限りない愛情をもち、子供に寄り添う　感動を共有し、子供たちとの絆を強くする
18	中	1・2	仲間を認める場「Best　フレンド」の設定　係活動の掲示物づくり
19	高	1・2	学級全員で級訓づくり　級訓に迫るための具体的な行動目標づくり
20	高	1	一人一人を大事にする朝のあいさつ　ルールを守るから自分も守られる
21	高	1	私が守らせたいルールとマナー　百円で千円の物は買えません
22	高	1・2	ほめる基準・叱る基準を明確に！　学習規律の確立が頭の整理・心の安定につながる
23	高	1・3	帰りの会に5分間の日記タイムを設ける　ほめるときはみんなの前で
24	高	1・3	今日笑顔になれたことの発表　自分発見ビンゴ
25	高	1	帰りの会や給食後の時間でエンカウンター　日々の足跡「今日のミラクル」を掲示物に
26	高	1・2	なぜ、係活動が必要か、当番活動の違いを話し合う　定期的な係の反省会
27	高	1	相手に伝わるあいさつの仕方　「トイレのスリッパをそろえよう」作戦
28	高	1・2	学級目標を決めるために気を付けたいポイント　私の教室環境の基本形
29	高	1	プラス言葉・マイナス言葉について考える　学級通信で、学級のめあてに込められた意味の紹介
30	高	1・2	保護者にもサインしてもらう、「心と心のつながりを…ノート」　学校行事の掲示物で、自分たちで作り上げる意識を高める
31	高	1	こそこそ話はしない　絵しりとり
32	高	1	あたり前の十か条づくり　相手の心に響くほめ言葉はタイミングよく
33	高	1	持ち物の不平等はすぐに不平不満へと発展する　給食のルールを決める
34	高	1	給食を楽しい時間にするための約束　子供が失敗したときこそチャンス
35	高	1	しつけの三原則　五色百人一首で人間関係づくり
36	高	1	給食のルールを考えよう　何でも書ける白紙
37	高	1	子供が涙を流した事例　心に“憂い”をもつ友達を救う言葉がけ
38	高	1・2	最高学年として全員が全力で前進する学級を作ろう　一生懸命を賞賛する雰囲気づくり
39	高	1・2	当番活動と係活動をどうとらえるか　４月当初から動き出した当番と５月から導入した係
40	高	1	担任を信じられるようになる取組　保護者とともに子供を育てる取組
41	高	1・2	学級全員で級訓づくり　日常の心得や学習のルールを意識させる掲示物
42	高	1	６年生になった意気込みを、名前を利用した「あいうえお作文」に　年間の給食当番・掃除当番表
43	高	1・2	過ごしやすく活気のある教室づくり　一人一役、活躍のできる場の設定
44	低	2・3	学習のルール「話し方」「聞き方」 どうしたかったのかな
45	低	2・3	とにかく声を出させよう！　帰りの会での詩の音読
46	低	2	教員の話を聴くことから　音声のないコミュニケーション
47	低	2	「話す」「聞く」の目標　「おたすけ黒板」やハンドサインの活用
48	低・中	2・3	学習のルール「話し方」「聞き方」 元気な声を出すことができるようにするためのトレーニング
49	中	2・3	朝の会「日直のスピーチ」・帰りの会[今日のはなまる」 意見発表の仕方を身に付ける
50	中	2・3	話し合いの隊形　児童への声かけ
51	中	2	楽しく学べる自主学習プリントを活用した授業
52	高	2・3	差別は絶対に許さない　何度も挑戦する姿勢を認める
53	高	2	４月第一週の「言葉のキャッチボール」 話し合いのヒントカード
54	高	2・3	話す・聴く・つなぐ　話す子にはこんな声かけを　聴く子にはこんな声かけを
55	高	2・3	一緒に考える楽しさ　子供同士がつながっていると感じられることを大切にする
56	低・高	3	連絡帳を通して　卒業式の後に児童がくれた手紙
57	高	3	学級通信を通した児童への指導と家庭との連携
58	高	3	学級通信を毎日発行する理由　担任・子供・保護者が学級通信で相互につながる

平成23年度　小学校における実践レポート一覧

	学年	視点	タイトル
1	高	2	一人一人の成長を支える学年経営・学級経営のあり方
2	高	2	A児を中心として行った1年間給食完食
3	高	2	一人一人が「教室こそが居場所」と思える学級経営
4	高	2	卒業に向けて学級への帰属意識を高める工夫
5	高	2	互いに認め合うクラスづくり
6	高	2	学級が変わった！やる気のないA児・きれやすいB児が変わった！
7	高	2	クラスの仲間と過ごす楽しさを感じさせる学級づくり
8	高	2	仲間を大切にし、学級の絆を深める工夫
9	高	2	やんちゃなA児が輝く係活動
10	高	2	言葉で伝えることが苦手なA児の居場所づくり
11	高	2	多くの人と触れ合う野外活動での取り組みを核としてともに高め合おうという気持ちを高める学級を目指して
12	高	2	9か月間の別室登校から学級に戻れたA児
13	高	2	一人一人が認められ、存在感をもつことができる学級経営
14	高	2	コミュニケーションがうまくとれないF児の居場所づくり
15	低	2	生活習慣・ルールを身に付け、友達と関われるようになったA児
16	低	2	通常学級で特別な支援を行うことによる居場所づくり
17	低	2	自己主張の強いA児に安心感をもって活動させる
18	中	2	コミュニケーションが上手くとれないA児の心と心をつなぐ教室づくり
19	中	2	発達障害のあるA児の笑顔を求めて
20	中	2	互いに認め合える学級をめざして
21	中	2	一人一人の居場所づくり　ー「今日の星」と「ありがとうリレー」の実践から
22	中	2	給食の時間が嫌いなY児に自信や安心感を持たせる
23	中	2	図画工作を通して友達と関われるようになったY児
24	中	2	一人一人の居場所づくりと集団づくり
25	中	2	一人一人の居場所づくり～第3・4学年　お互いに認め合える雰囲気づくり～
26	高	3	交流児童Aとの関わり合いを通して気付かせたい本当の思いやり
27	高	3	人との関わりが苦手なA児の社会性を育むために
28	高	3	友達とのトラブルが絶えないA児の良さを認める
29	高	3	活動意欲が低いクラスから自主性を引き出す
30	高	3	自分と仲間を見つめ、A児の自己有用性を高める
31	高	3	暴力的な言動が気になるA児に認められる場を
32	高	3	人と関わることの苦手なA児が見せた成長
33	高	3	自信をもち、友達に働きかけるようになったC児
34	高	3	学年の教師の支援を受け、行事で役割を与えることで取り組む気持ちを高め、不登校A児から登校意欲を引き出す
35	高	3	コーチングを中心にA児の思いを引き出し、自己肯定感を高める
36	高	3	人との関わりが苦手なA児の良さを認められるクラスづくり
37	高	3	個に応じた対応で攻撃的で無気力な面もあるA児の本質を引き出す
38	高	3	問題行動の多かったA児をリーダに育てる
39	高	3	仲間に相手にされないS児が学級に居場所を見つけるために
40	高	3	引っ込み思案なA児に自信をもたせる
41	低	3	不安傾向の強いA児への指導を通して、安心で楽しい学校生活をめざす
42	低	3	アスペルガー症候群R児から自己肯定感を引き出す
43	低	3	あらゆる場面でマイナスの発言をしてしまうA児が安心して本来の良さを出せるような学級づくりを目指す
44	低	3	学級会を通して自信を深めることができたA児
45	低	3	自分らしさが輝く場面作り　～生活科を核とした自分の成長に気付く活動場面・展開の工夫～
46	中	3	暴力・暴言が気になるM児から集団への帰属意識を引き出す
47	中	3	自分勝手な行動が気になるA児が仲間と学び合う学級づくり
48	中	3	自分らしさを発揮しよう　3年道徳
49	中	3	一人一人が満たされ、自分らしさが輝く学級経営
50	中	3	登校を渋るK児の良さを引き出す
51	中	3	A児を支える学級づくり
52	中	3	自分らしさが輝く学級づくり　～第4学年　教科の学びを活かす学級経営～

７　おわりに

学校は、子どもにとってかけがえのない生活の場所です。学校が子どもの成長に大きな影響を与えることは、そこで生活する時間の長さからも明らかですが、人と人とのつながりの大切さが叫ばれている今日においては、学校のもつ意味は、これまで以上に大きくなっていると言えます。こうした中、学校そして教師が、安心でき、信頼できる存在であることは、子どもの健やかな成長にとって何よりも大切なことではないかと思われます。

現在、子どもを取り巻く社会は、子どもたちにとって必ずしも良いことばかりとは言えないのも事実です。しかし、それでもなお、子どもにとって何が大切かを真摯に考え、実践する教師の力がある限り、子どもたちの未来は開かれると信じています。そして、この『小学校生徒指導の手引』が、そのための先生方の一助になることができれば幸いです。

最後に、本協議会において、深まりのある協議及び充実した手引の作成に向けて、貴重な実践資料を提供くださった県内各市町村の先生方に感謝申し上げます。

平成２４年３月

愛知県生徒指導推進協議会

平成２２年度　愛知県生徒指導推進協議会委員

松本真理子	名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター教授
林　　義久	愛知県医師会会員
久利　恭士	愛知県臨床心理士会 スクールカウンセラーコーディネーター
大竹美保子	一宮市民生児童委員協議会主任児童委員部会会長
若林眞由美	〃
阿部　秀子	愛知県小中学校ＰＴＡ連絡協議会副会長
酒井　廣子	〃
鈴木　　修	愛知県小中学校長会生徒指導委員会委員長
平野　隆雄	津島市立高台寺小学校長
板倉小夜子	豊田市立五ケ丘東小学校長
杉浦早智江	半田市立半田小学校教頭
岩瀬　輝信	蒲郡市立中央小学校教頭
川西せつ子	豊橋市立高豊中学校養護教諭
森　　敬之	名古屋市教育委員会指導室指導主事
栗木　智美	小牧市教育委員会指導主事
大西　兼功	愛知県警察本部生活安全部少年課課長補佐
青山美智恵	中央児童・障害者相談センター児童相談課課長補佐

＜事務局＞

岩間　　博	愛知県教育委員会学習教育部長	
加藤　千博	〃	義務教育課長
伊藤　雅朗	〃	義務教育課主幹
谷口　高一	〃	生涯学習課主任主査
寺西　孝生	〃	義務教育課主任主査
橋本　敏弘	〃	高等学校教育課主査
加藤　博之	〃	義務教育課主査
佐藤　淑乃	愛知県総合教育センター研究指導主事	
高田　和明	愛知県教育委員会義務教育課指導主事	
柵木　智幸	〃	

※ 所属等は、平成２２年度時のものです。

平成２３年度　愛知県生徒指導推進協議会委員

松本真理子	名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター教授
林　　義久	愛知県医師会会員
久利　恭士	愛知県臨床心理士会 スクールカウンセラーコーディネーター
若林眞由美	一宮市民生児童委員協議会主任児童委員部会会長
木全恵美子	〃
酒井　廣子	愛知県小中学校ＰＴＡ連絡協議会副会長
稲葉　華代	〃
鈴木　　修	愛知県小中学校長会生徒指導委員会委員長
村松　伸郎	豊橋市立松山小学校長
小竹紀代子	大府市立東山小学校長
森　佳世子	名古屋市立東志賀小学校養護教諭
三浦　友久	名古屋市教育委員会指導室指導主事
池田美枝子	豊田市教育委員会指導主事
吉田　　修	愛知県警察本部生活安全部少年課課長補佐
橘　能里子	中央児童・障害者相談センター児童相談課主任主査

＜事務局＞

岩間　　博	愛知県教育委員会学習教育部長	
加藤　千博	〃	義務教育課長
稲垣　　寿	〃	義務教育課主幹
橋本　敏弘	〃	高等学校教育課課長補佐
谷口　高一	〃	生涯学習課主任主査
堀場　正弘	〃	義務教育課主任主査
高田　和明	〃	義務教育課主査
佐藤振一郎	愛知県総合教育センター研究指導主事	
石川　良一	愛知県教育委員会義務教育課指導主事	
一柳　隆光	〃	
山西　正泰	〃	

※ 所属等は、平成２３年度時のものです。